

BIM ライブラリ技術研究組合/部会 2

第 2 回在り方・運用合同部会 議事要旨

【日 時】 令和 2 年 10 月 27 日(火)15:00～16:30

【場 所】 Teams による Web 会議

【出席者】

氏名	所属	氏名	所属
濱地 和雄	オートデスク(株)	山下 純一	(一社)buildingSMART Japan
森谷 靖彦	(公社)日本建築積算協会	小柴 慎一	パナソニック(株)
田中 武	(株)久米設計	泉 清之	NPO 建築技術支援協会
大森 文彦	大森弁護士事務所	前澤 孝之	住友セメントシステム開発(株)
楠山登喜雄	(一社)日本建築積算事務所協会	柳 良和	住友セメントシステム開発(株)
後藤 孝二	(株)構造計画研究所	足達 嘉信	鹿島建設(株)
小林 伸樹	日本郵政(株)	足立 友和	(株)竹中工務店 鳥澤代理
波多野弘和	日本郵政(株)	能勢平太郎	野原ホールディングス(株)
境野	ダイテック	繁戸 和幸	(一社)日本建築士事務所協会連合会
福田 義徳	(株)NYK システムズ	富樫 俊文	(地法)日本下水道事業団
吉田 哲	(株)日建設計	近藤 伸一	応用技術(株)
安井謙介	(株)日建設計	野口 順二	日本メックス(株)
安田 幸一	東京工業大学	田伏 翔一	オブザーバー
関根 悦子	(株)ノーリツ	鈴 晃樹	オブザーバー
巖 文成	(一社)全国建設業協会	寺本 英治	BLCJ
本谷 淳	(株)大林組	山中 隆	BLCJ
鬼頭 篤子	(株)大林組	福島 孝治	BLCJ
弘法堂啓一	佐藤工業(株)	平田 昌美	BLCJ
佐藤 宏一		渋谷 玲	BLCJ

(以上 37 名)

【議事確認事項】

[確認事項]

- 【資料 在・運 2-2】 2019 年度 PRISM 概要について確認。
- 【資料 在・運 2-3】 BLCJ 技術運営会(第 2 回)資料について確認。
- 【資料 在・運 2-4】 PRISM2020 に提示した内容について説明・確認。
- 【資料 在・運 2-5】 在り方部会・運用部会 2020 年度工程表(案)について説明・確認。

[懸案事項]

- ・ ビジネスモデルは年度末までにさらに検討が必要。
- ・ 運用部会はビジネスモデル等の前提条件がそろい次第、活動する。当面合同部会として情報収集を行う。

【議事】

配布資料

- 【資料 在・運 2-0 議事次第】
- 【資料 在・運 2-1 在り方部会・運用部会組合員リスト（後日配布）】
- 【資料 在・運 2-2 2019 年度 PRISM 概要】
- 【資料 在・運 2-3 BLCJ 技術運営会(第 2 回)資料】
- 【資料 在・運 2-4 PRISM2020 に提示した内容】
- 【資料 在・運 2-5 在り方部会・運用部会 2020 年度工程表(案)】

1.2019 年度 PRISM 概要報告

福島： 【資料在・運 2-2 2019 年度 PRISM 概要について概要説明】

安田： 法適合については具体的な作業をされているのか。

福島： 仕様書としてどのように対応できるか意見交換しているところで、部会 3 からの要求には至っていない。

2.技術運営委員会

【資料 在・運 2-3 BLCJ 技術運営会(第 2 回)資料】 について

寺本： 7 月の第 1 回を受けて 9 月に第 2 回を開催。

①～④を背景に(0)～(3)を（その 1）～（その 3） BIM ライブラリの目的、規模、利用開始時期の変更及びビジネスモデルについて方針変更を行う。

【資料 在・運 2-4 PRISM2020 に提示した内容】について

- ・運用部会は前提条件を決まらない段階のためほぼ休眠。但し情報共有を。
- ・在り方部会は社会実装に向けた活動として、「2.技術開発動向を踏まえた BIM ライブラリと配信方法の検討」、「3.ビジネスモデルの検討」を行う。

【資料 在・運 2-5 在り方部会・運用部会 2020 年度工程表(案)】

- ・年末までに新たなビジネスモデルの確定を目指す
- ・ライブラリは試行を経て運用開始は 2022 年度

安田： （質疑は特になし）

寺本： ビジネスモデル変更について今度ご意見頂きたい。

山下： ビジネスモデル変更と実際のライブラリ機能・構築要件は相互作用する。

誰からどういう要件で課金し、そのやり方をライブラリで実現できるのかが肝である。実際に構築するライブラリが、誰を対象に何を売るのかを明確にしないとビジネスモデルの考え方が難しい。

既存のライブラリのビジネスモデルとは異なるものになる。ユーザーに使ってもらうのと同時に、標準の変化に対応したものを既存ライブラリに提供するなどがビジネスモデルになる可能性がある。

寺本： 最先端の標準を全員に享受することを担保し、環境基準・法改正・仕様書変更等に迅速に対応することが価値を提供していく。メンテナンスが重要となる。

NBS はユーザーの一般用途は無料だが仕様書連携の段階から課金している。今後議論が必要。

3.その他

次回日程

次回 開催予定	令和 2 年 12 月 22 日(火)(15:30~17:30)	[合同部会]
次々回開催予定	令和 3 年 2 月 25 日(木)(15:30~17:30)	[合同部会]

(以上)